

申込場所

北海道大学高等教育推進機構1階 6番公開講座窓口

実施会場

北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室

札幌市北区北17条西8丁目

地下鉄「北18条」駅下車徒歩9分(約500m)

中央バス「北18条西5丁目」下車徒歩7分(約400m)



●自家用車での来学について

駐車場狭いため、できる限り公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車で来学される方は、北20条東門から入構いたします。その際入りロゲートで発券された入構精算券は、必ず公開講座担当者へ提出し、確認印を受けてください。確認印がないと出構できません。駐車場は高等教育推進機構北側の駐車場をご利用ください(北13条門から入構した場合、機構北側駐車場へは通り抜けできません)。なお、出構時に入構料として300円を徴収いたしますので、あらかじめご了承ください。

平成25年度

# 北海道大学 公開講座 (全学企画)

## テーマ 2030年へのシナリオ



申込期間 平成25年 6/3 月 ▶ 6/25 火  
【土曜・日曜を除く】9:00~17:00

実施期間 平成25年 7/1 月 ▶ 7/29 月  
18:30~20:30

会場 北海道大学情報教育館3階  
スタジオ型多目的中講義室  
(札幌市北区北17条西8丁目)

受講料 5,000円

講師略歴

教育学研究院 教授

小内 透 (おない とおる)

第1回 1955年群馬県生まれ。1984年北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。北海道教育大学旭川分校助手、助教授、北海道大学教育学部助教授を経て、2002年大学院教育学研究科(現研究院)教授。博士(教育学)。専門は教育社会学。主な著書に「教育と不平等の社会理論」(東信堂、2005年)、「トランスナショナルな移動と定住・全3巻」(編著、御茶の水書房、2009年、第4回地域社会学会賞)など。

理学研究院 准教授

野崎龍介 (のざき りゅうすけ)

第2回 1957年東京生まれ。1987年早稲田大学大学院理工学研究科物理及び応用物理学専攻修了。博士(理学)。1985年早稲田大学理工学部助手、1988年カナダケベック大学(博士)研究員、1992年北海道大学理学部助手、講師、同大学院理学研究科助教授を経て2007年より現職。1999~2000年米国商務省標準技術研究所客員上級研究員。専門は複雑液体物理学(生体系を含めた液体の動的性質の研究)。

情報科学研究科 教授

金子俊一 (かねこ しゅんいち)

第3回 1977年、北海道大学工学部卒業。1979年、同大学院情報工学専攻修了。工学博士。統計的制御理論、統計的画像処理工学、画像計測工学、ロボット工学などの研究に従事。現在は、ロボ統計学に基づくロバスト画像照合アルゴリズム、ノンパラメトリック・バタン分類アルゴリズム、3次元点群・画像処理の研究を推進中。

経済学研究科 准教授

工藤教孝 (くどう のりたか)

第4回 1973年山口県生まれ。1996年立命館大学経済学部卒業。2000年ニューヨーク州立大学大学院経済学研究科修了。Ph.D.(経済学)。一橋大学経済学研究科講師、関西大学経済学部助教授を経て、2005年度より北海道大学経済学研究科助教授(2007年度より准教授)。専門はマクロ経済学。共著書「サーチ理論」(東京大学出版会、2007年)。「日経ビジネス」や「日本経済新聞」などへの寄稿も行う。

工学研究院 准教授

岸 邦宏 (きし くにひろ)

第5回 1970年北海道生まれ。1999年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。北海道大学大学院工学研究科助手を経て、2008年より北海道大学大学院工学研究院准教授。専門は交通計画、交通工学、都市計画。自動車交通から公共交通まで、人々の生活、地域を支えるための交通体系のあり方や、交通計画と連携したまちづくりについて研究を進めている。道内各地の交通政策の立案にも関わっている。

薬学研究科 教授

武田宏司 (たけだ ひろし)

第6回 1980年、北海道大学医学部医学科卒業。同年北大医学部第三内科へ入局し、消化器内科医として、関連病院勤務。1994年北大医学部第三内科助手、その後、同講師、准教授を経て、2008年より北大大学院薬学研究科臨床病態解析学教授。2010年からは北大病院栄養管理部長を兼任し、同栄養サポートチーム委員長も務める。研究テーマは、炎症性腸疾患、機能性消化管疾患、栄養不良の病態生理・治療に関する研究。

地球環境科学研究科 准教授

藤井賢彦 (ふじい まさひこ)

第7回 1972年横浜生まれ。1996年九州大学理学部卒。2001年北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程修了。国立環境研究所、米国メン州立大学海洋科学部を経て、2006年より現職。海洋生態系保全と漁業・観光業の両立や、持続可能な低炭素社会の実現に向けた教育・研究を行っている。著書に「持続可能な低炭素社会」(北大出版会、共著)、「地球温暖化はどれくらい「怖い」か?」(技術評論社、共著)など。

文学研究科 教授

櫻井義秀 (さくらい よしひで)

第8回 1961年生、1987年北海道大学大学院博士課程中退、2004年より北海道大学大学院文学研究科教授。専門は宗教社会学、タイ地域研究、東アジア宗教文化論。近年は、カルト問題対策、過疎地寺院の社会的機能、東アジア諸国の宗教政策と宗教復興現象といった課題に取り組んでいる。

振替払込  
受付証明書  
(E票)  
貼付欄

必ず郵便局・銀行  
等の窓口で振り込  
みください。

# テーマ 2030年へのシナリオ

## 講座内容

少子高齢化や経済の低迷、財政危機、近隣諸国との緊張関係など閉塞感が日本社会を覆う中、この先どんな未来像を描きうるのかを考える。

**申込期間** 平成25年6月3日(月)～平成25年6月25日(火)  
《土曜・日曜を除く》9：00～17：00

**実施期間** 平成25年7月1日(月)～平成25年7月29日(月)  
18：30～20：30

**定員** 100名程度

**受講料** 5,000円  
※専用の払込票にてお支払いください。振替払込受付証明書(E票)は、受講申込書の所定の位置に貼付のうえ提出願います。なお既納の受講料はお返しできませんのでご了承ください。

**会場** 北海道大学情報教育館3階 スタジオ型多目的中講義室  
(札幌市北区北17条西8丁目)

**受講資格** 18歳以上の方であればどなたでも受講できます。  
(学歴・職歴は問いません)

**特定回の受講** 全8回の講義のうち、定員に余裕がある場合は、特定回のみ単発で受講することが可能です。希望される講義の開催3日前までに問い合わせ先までご連絡ください。なお、特定回の受講料は1回あたり1,500円です。

**修了証書** 6回以上受講した方には、最終講義終了時に終了証書を交付します。

**道民カレッジ** 本講座は道民カレッジ連携講座として指定されています。  
(教養16単位)

## 申込手続きの流れ

- はじめに、定員の超過の有無をご確認ください。
- 定員に余裕がある場合  
専用の払込票により、郵便局または銀行等の窓口で受講料をお支払いください。その際、控えとして受け取った「振替払込受付証明書(以下、E票)」は、受講申込み時に必要ですのでなくさないようご注意ください。
- E票を裏面に添付した受講申込書を直接窓口へご持参いただくか、郵送でお申し込みください。

## 問い合わせ・申込先

国立大学法人北海道大学学務部教務課(教育推進担当)  
〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 高等教育推進機構 1階 6番公開講座窓口  
電話 011-706-5567(直通)

日程	講義題目	講師	講義概要
第1回 7/1(月)	グローバル化と教育の変容	教育学研究院 教授 小内 透	経済・社会のグローバル化の動きが強まる中で、教育のあり方は大きく変容しつつあります。国の枠をこえて、義務教育段階から高等教育まで多くの外国人が学び、外国で学ぶ日本人も増大しています。それにともなって、世界的な規模で教育の成果が評価される傾向も現れています。これらの動きの中で、従来の国民教育のあり方が問い直され、トランスナショナルな教育システムの構築が課題となりつつあることについて論じます。
第2回 7/4(木)	エネルギーと人間の関わり—これまで、そしてこれから—	理学研究院 准教授 野崎 龍介	一昨年の大災害により、エネルギー問題に関する議論が今までなく高まっているようです。報道では、枯渇性エネルギーと再生可能エネルギーといった難解なキーワードが飛び交います。しかし、そもそも「エネルギー」とはなんなのでしょうか。人類とのかかわりが深い政治や経済といった社会科学的立場を一旦離れて自然科学(物理学)の立場からエネルギーを理解し、エネルギーと人間の関わり方を考えることができればと思います。
第3回 7/8(月)	実産業界を支える画像技術	情報科学研究科 教授 金子 俊一	半導体・自動車・電機・材料分野などほとんどの実産業界においては、検査、特に画像処理技術に基づく検査作業は欠くことのできないものであり、世界に対して高品質の工業製品を提供していくことで国を経営している、日本などの先進国においては、特に大切である。この講義では、そのための一助となっている画像検査技術の実際について、平易に解説したい。
第4回 7/11(木)	日本の物価を考える	経済学研究科 准教授 工藤 教孝	第2次安倍政権発足によって日本経済は大きな転換点を迎えています。特に注目されているのが政府と日銀との関係です。安倍政権の目指す「レジームチェンジ」によって日本経済はどこへ向かうのでしょうか。本講義では、日銀の金融政策と政府の累積債務問題の未来を「物価」という視点から考えます。
第5回 7/18(木)	北海道の都市と交通の将来展望	工学研究院 准教授 岸 邦宏	昨年、北海道新幹線札幌延伸が決まり、2035年に開業予定となっています。しかし、すでに人口減少・高齢化が進み、いかにして安全・安心に暮らせる街を作るか、都市や産業界を活性化させるかが重要な課題となっています。本講義では、北海道の都市と交通の将来はどうなっているか、札幌市と地方都市の観点から説明します。そして、将来のために都市や交通ネットワークをどのように整備していくべきかを解説します。
第6回 7/22(月)	わが国の医療と薬の近未来像とは	薬学研究院 教授 武田 宏司	昨年は山中伸弥教授のノーベル賞受賞の話題で日本中が沸きました。一方で、医療費負担の増大、薬害による健康被害など、医療をめぐるマイナス面の報道も目につきます。しかし、実際にはこれらの判断は諸外国との比較のなかでなされる必要があります。本講義では、わが国の医療水準を世界と比較してその特徴を明らかにした上で、今後医療と薬にかかわる研究がどの方向へ向かうかおもうとしているのか、わかりやすく解説したいと思います。
第7回 7/25(木)	2030年、そのとき北海道の食料とエネルギーは?	地球環境科学研究科 准教授 藤井 賢彦	日々の暮らしに不可欠な食料とエネルギー。北海道は食料自給率こそ100%を大きく上回っていますが、豊富な再生可能エネルギー賦存量を持ちながら、エネルギーは自給には程遠いのが現状です。2030年代にはこれらの需給構造はどうなっているのでしょうか。地球温暖化・海洋酸性化予測の結果や、道内の産官学民の有志による「北海道エネルギーチェンジ100プロジェクト」の成果なども踏まえつつ、お話ししたいと思います。
第8回 7/29(月)	宗教とソーシャル・キャピタル—人口減少社会における宗教の役割—	文学研究科 教授 櫻井 義秀	現代日本は本格的な人口減少時代を迎えており、地方の過疎問題は都市部にも及びはじめています。政治に景気回復や社会政策上のミラクルを期待しても無理であり、自分たちで将来の糧や子世代・孫世代に託すべき資産を維持構築していく時代に入っている。本講義では現代宗教(神社・寺院・教会)の趨勢を概観しながら、宗教の限定的な役割をソーシャル・キャピタル(社会関係資本)の維持・構築という面から論じていく。

## 自家用車での来学について

駐車場狭陰のため、できる限り公共交通機関をご利用ください。やむを得ず自家用車で来学される方は、北20条東門から入構願います。その際、入り口ゲートで発券された入構精算券は、必ず公開講座担当者へ提出し、確認印を受けてください。確認印がないと出構できません。駐車場は高等教育推進機構北側の駐車場をご利用ください(北13条門から入構した場合、機構北側駐車場へは通り抜けできません)。なお、出構時に入構料として300円を徴収いたしますので、あらかじめご了承ください。

# 受講申込書

フリガナ 氏名	年代 ( 〇 歳代) 男 ・ 女
〒	
現住所	
TEL ( ) -	

(アンケート)下記に該当する部分に○をつけてください。

問1. あなたはこの講座をどのようにして知りましたか。

1. 新聞  
 2. インターネット  
 3. 受講案内(直接送付されたもの)  
 4. 受講案内(学習センター・図書館・ちえりあに置いてあったもの)  
 5. 受講案内(ふれあい広場に置いてあったもの)  
 6. 道民カレッジガイドブック・ホームページ  
 7. 友人・知人からの誘い  
 8. その他( )

問2. 受講を申し込むにあたり、どなたかを誘われましたか。

1. 友人  2. 知人  3. 家族  4. その他

問3. 誘った結果はどうでしたか。

1. 申し込んだ  2. 申し込まなかった  3. わからない

問4. あなたは過去に大学が主催する公開講座を受講したことがありますか。

1. ある  2. ない

問5. 問4で「ある」と答えられた方は、以下から該当するものを全てお選びください。

1. 北海道大学の全学企画の公開講座を受講したことがある。  
 2. 北海道大学の各研究科等が主催する公開講座を受講したことがある。  
 3. 北海道大学以外の大学公開講座を受講したことがある。

問6. あなたは道民カレッジの学生になっていますか。

1. はい カレッジ生番号( )  2. いいえ

問7. 今後、受講案内の送付を希望しますか。

1. はい  2. いいえ

・担当者記入欄

日付	番号
----	----

※申込書に記入した個人情報は大学の行事等の案内以外には利用いたしません。